

## 武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり

この言葉は、「葉隠（はがくれ）」の中で記述された有名な一説です。

「葉隠」とは、江戸時代中期（1716年ごろ）に出された書物で、肥前国佐賀鍋島藩藩士・山本常朝（つねとも）が武士としての心得について説明した言葉を、田代陣基（つらもと）が筆録した記録です。

この言葉は、葉隠の全体を理解せずにこの部分だけ取り出して「武士は簡単に死を選ぶ」といったように単純に解釈されてしまっている事が多いのが実情です。しかし、山本常朝自身は、「私も人である。生きる事が好きである」と述べている様に、葉隠は死を美化したり自決を推奨する書物ではありません。

「人は誰でもいつかは死を迎えます。そのことを自覚することで、生きることの大切さを知り、真の生き方を見出すことができるのです」という、人間として正しく生きるための言葉です。

このように、葉隠の記述は、嫌な上司からの酒の誘いを丁寧に断る方法や、部下の失敗を上手くフォローする方法、人前であくびをしないようにする方法等、現代でいうビジネスマナーの指南書や礼法マニュアルに近い記述がほとんどです。